

■新庁舎建設場所



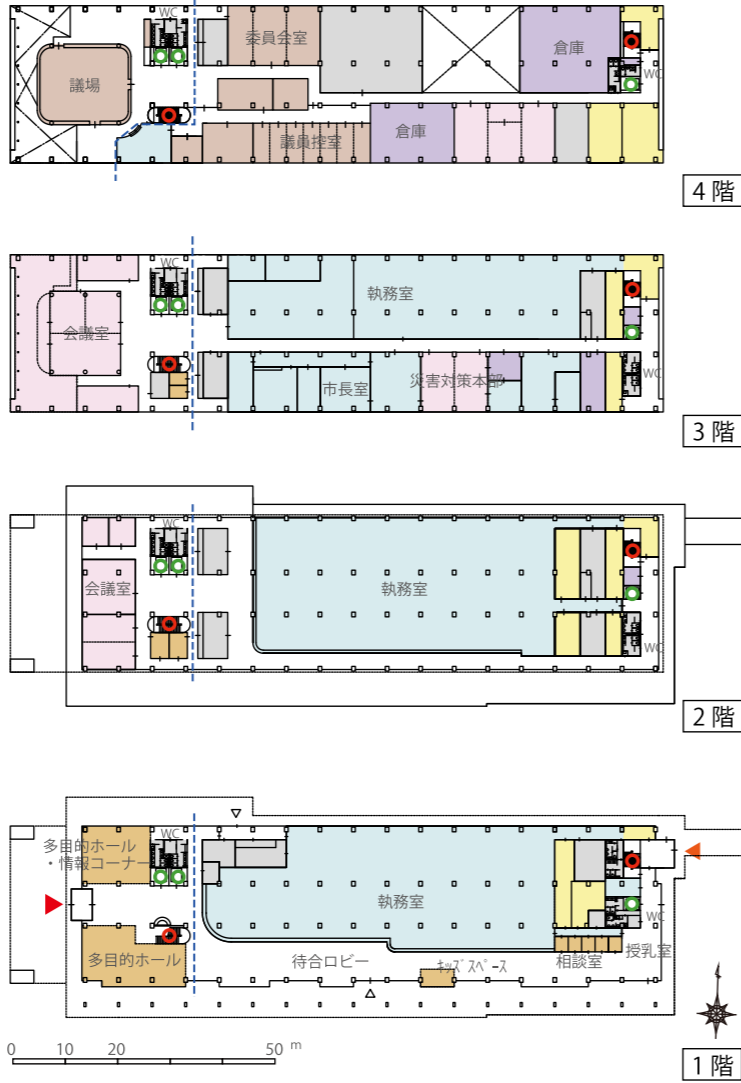
【将来的な周辺道路イメージ】

凡例：

- セキュリティライン
- エレベーター
- 階段

執務室
倉庫・書庫
会議室・作業室
付属室・設備機械室
共用部
議会関係諸室
市民利用諸室
福利厚生諸室

■フロアレイアウト



■概算事業費

区分	金額	備考
建築本体工事費	64.5 億円	建築、電気、機械、昇降機
外構工事費	3.2 億円	駐車場、植栽、雨水浸透施設
付帯工事費	1.0 億円	外部倉庫・車庫
設計・工事監理費	2.5 億円	
消費税相当額	7.1 億円	税率 10%
合計	78.3 億円	

※本庁舎解体費、什器・備品費、ネットワークシステム費、移転費は別途計上

■事業スケジュール

年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度
工程	実施設計	新庁舎建設		現庁舎解体 駐車場整備

■計画概要

敷地概要	
計画地	深谷市仲町 11 番 1 号
敷地面積	約 14,000 m ²
用途地域	商業地域
駐車場	180 台
建築概要【新庁舎】	
建築面積	約 5,000 m ²
階数	地上 4 階 (地下階無し)
延床面積	約 13,400 m ²
構造種別	免震構造・RC 造 (一部 S 造、SRC 造)
建築概要【付帯倉庫・車庫】	
建築面積	約 300 m ²
階数	地上 2 階
延床面積	約 500 m ²
構造種別	耐震構造 S 造

深谷市役所

新庁舎の基本設計がまとまりました

～安全・安心な防災拠点 シンプルで機能的な庁舎を目指して～



国道17号から望む新庁舎イメージ

平成 27 年度に策定しました「新庁舎建設基本計画」を基に、市議会における新庁舎建設特別委員会での協議、また、市民ワークショップ、パブリックコメントや市民説明会により市民の皆様からいただいた意見等を踏まえ、新庁舎の設計についての基本的な内容を定めた「新庁舎建設基本設計」がまとまりました (平成 29 年 3 月策定)。

引き続き、平成 29 年度は、より詳細な実施設計を行い、平成 32 年度中の新庁舎完成を目指して取り組んでいきます。

【新庁舎の特徴】

- **4 階建ての低層**とすることで、重心が低く、堅牢な庁舎とし、周辺環境との調和に配慮
- **免震構造を採用**し、防災中枢拠点としての建物の安全性、業務継続性を確保
- 市民の利用頻度の高い**窓口部門を 1 階に集約配置**し、市民サービスを向上
- 新駅通り線を考慮し、**庁舎西側に「市民広場」と「メインエントランス」**を設置
- 深谷市の豊かな日射を最大限に活かし、**約 150kw の大規模な太陽光パネル**を設置
- 深谷らしさを象徴する**レンガの外観**と、「ホフマン輪窯」をモチーフとした「(仮称) 深谷コリドー」を設置



お問い合わせ：深谷市総務部新庁舎建設推進室
平成 29 年 4 月

〒366-8501 深谷市仲町 11-1 TEL 048-501-2610

E-mail c-ken@city.fukaya.saitama.jp

「5つの基本理念」と「深谷らしさ」の実現を目指した主な設計内容

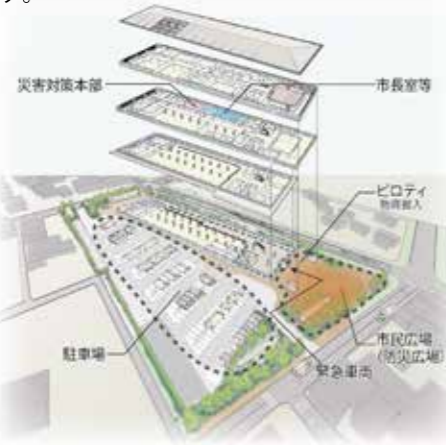
1 市民にとって安全・安心な庁舎

■ 防災中核拠点としての機能に優れた低層型庁舎

・低層でフロア全体の視認性が優れているため、安全な避難、早期の災害対策が行えます。

・日常の憩いの場である「市民広場」や駐車場などが災害時の「防災広場」となり、敷地全体を活用した防災中核拠点となります。

・ピロティは、雨に濡れない物資の搬出入、救急車・消防車などの緊急車両の円滑なアプローチを可能とします。



【防災中核拠点のイメージ】

■ 安全性と経済性に優れた構造計画

・低層で地震に強いシンプルな箱型形状とし、安全性に優れ、災害対策への適合性に優れた免震構造を採用します。

2 市民サービスの向上を目指した庁舎

■ 分かりやすく、市民が気軽に利用できる窓口空間

・市民が多く利用する窓口部門を1階に集約し、分かりやすい窓口配置により、快適に利用できるワンフロアサービスを提供します。



【窓口空間のイメージ】

3 人にやさしく、市民に開かれた庁舎

■ 市民が安心して利用できる配置計画

・将来的に深谷駅とつながりメイン道路となる「新駅通り線」からのアクセスに配慮し、西側に「メインエントランス」と「市民広場」を配置します。
 ・東側には「サブエントランス」と「ポケットパーク」を配置します。
 ・庁舎敷地内への車両の出入口は、西側と東側の2か所とします。
 ・駐車台数は180台（身障者用4台、電気自動車用充電スペース2台を含む）確保します。

■ まちとのにぎわいの相乗効果を生む市民利用スペース『市民広場』/『多目的ホール』/『(仮称) 深谷コリドー』

・「市民広場」に隣接して市民との交流・協働スペースとなる「多目的ホール」を設置し、また、国道に面して、市民の憩い語らいの場となる「(仮称) 深谷コリドー」を設置します。



【配置計画図（1F平面図）】

4 自然環境にやさしい庁舎

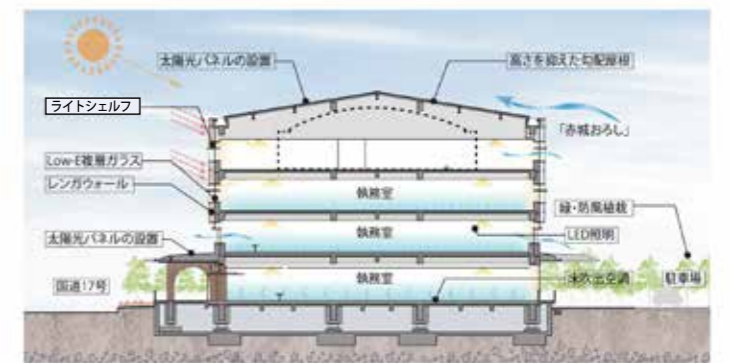
■ 深谷市の自然環境と庁舎の形状を活かし、環境負荷を低減

・深谷市の豊かな日射を最大限に活かし、約150kWの大規模な太陽光パネルを設置します。

■ 風土に根ざした外壁『レンガウォール』

・レンガの特性を活かした外壁を使用することで、日差しをさえぎり自然通風を取り入れるなど、環境にやさしく、快適な室内環境を構築します。

・Low-E 複層ガラスを採用し、熱負荷を低減します。



【様々な環境配慮手法の断面イメージ】

5 シンプルで機能性と経済性に優れた庁舎

■ 将来の組織変更等に柔軟に対応できる執務空間

・ワンフロアが広くオープンな執務室により、組織改変など、将来の変更に柔軟に対応できる執務空間をつくります。

・カウンターを共有化することで、効率的な窓口対応が行えます。

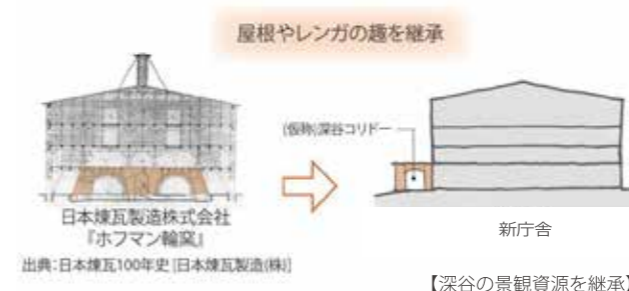


【変更が容易なカウンターイメージ】

深谷らしさ 市民に親しまれ、まちづくりの活性化につながる深谷らしい庁舎

■ 「深谷らしさ」を生み出し、調和する景観

・4階建ての低層でのびやかなレンガの外観と、市民の憩い語らいの場となる「(仮称) 深谷コリドー」を設置することで、「レンガのまち深谷」をアピールし、「ホフマン輪窯」などの深谷の歴史を継承する新たな景観をつくります。
 ・「(仮称) 深谷コリドー」には、花壇を設置し、市民広場や多目的ホールと一体利用ができる場所として、様々な市民活動を支えます。



【深谷の景観資源を継承】

【(仮称) 深谷コリドーの活動イメージ】



【北西から望む新庁舎イメージ】



【(仮称) 深谷コリドーの活動イメージ】